

〔楊弓射禮蓬矢抄追考〕道具の事

一的 櫻、藤木よし、大きき三寸已下也。是も中比より三寸二分、三分、五分までに造り出す也。的を奉書の紙にて張、白粉をうす糊にませ、村のなきやうに引、そのうへに大輪を書べし。大輪書やう、まとのふちより三分のけて輪のふとさ四分たるべし。或はまとのうちに鬼といふ字を書こともあり。○中略

一期 高さ三尺五寸といへり、今は是に三寸ながくする也。黒皮に綿を入れ、皮のたけ一尺九寸、下一尺九寸、合て三尺八寸なり。

往年期の寸法の事、去御方へたづね侍しに、左のとをり御書記し給ひしなり。○圖略

總高三尺八寸。○中略 右の外布、衡六尺四方。黒色ハ紺ニテモ。

添書

後陽成院様の御時の期は、御時代不知、御藏に納り候古き期を御用被遊候由。

總高三尺九寸 幅二尺六七寸計

太鞆の内高さ幅と同位にて、四角に見江申候馬皮にて張、真中に貊はくを彩色に畫之候由。

右高さは相違無御座候、其外の寸法はとくと知れ不申候由。馬皮にてはり申候は、期音と的の音よくわけの聞へ申すやうにとの御事に、可有御座との推量に御座候由。

後水尾院様御時に、右の期御改被爲成、高さは古製のとをり三尺九寸にて、幅一尺七寸五分程にとの勅意を以て、一條惠觀公より、金森宗和公へ仰せ付させられ、右の寸法にて、其外木のふとみ形の恰好物すきに被成被下候様にとの御事にて、御座候處に、右のとをりにて、幅御取合不申様におぼしめし候哉、壹尺七寸に五分御ち、め被成、其外皆宗和公御物すきに而、御仕立被成被爲上候由、圖を仕り進じ候、本阿彌兼入光叔楊弓の別號也。期も、此御極の格にて御座候、まかしながら、足は少